

はじめに

本書は、第二次世界大戦終結 70 周年を記念し、アメリカ研究者の立場からふりかえったものです。本書は、学問分野の異なる執筆者たちが、「第二次世界大戦は日本とアメリカにどのような影響を与えたのか」という共通テーマを分析した成果です。執筆者は各ご専門分野における最先端でご活躍しておられ、卓越した研究業績をお持ちです。本書は、最先端の知見を平易な言葉で説明しています。多様な角度から分析をすすめることで、日本およびアメリカの総合的理解が深まることの一助になることを執筆者一同、心より願っております。

平成 27 年 9 月吉日

杉田米行

第二次世界大戦の遺産——アメリカ合衆国

目 次

はじめに..... i

第1章 帝国の「触手」としての蒸気船

——太平洋航路がアジア・アメリカに意味するもの … 大井由紀…1

はじめに——環太平洋地域と蒸気船 1

1. 「環太平洋地域」への船出 4

(1) 太平洋岸へ 4

(2) アジアへ 5

2. 対外的拡張の「触手」としての蒸気船 8

(1) 日本の海運の拡大 8

(2) 「帝国」のまなざしを支えた蒸気船 11

(3) 海から空へ 13

おわりに 15

第2章 第二次世界大戦と日本の自動車産業のアメリカ化 …… 藤村敬次…19

はじめに 19

1. アメリカ資本の日本進出

——フォード、ゼネラル・モーターズ2強時代 20

2. 日本政府の対応——自動車産業の国内産業化に向けて 23

3. 国策会社誕生とアメリカ資本排除 26

4. アメリカ化と第二次世界大戦期における日本の自動車産業 32

おわりに 35

第3章 上海の日本租界に生きた引揚者

——ある家族の体験から戦後を考える …… 杉野俊子…39

はじめに 39

1. 上海育ちの母親幸子と日本租界 40

(1) 上海の共同租界 41

(2) 上海内乱と第一次上海事変 42

2. 日本育ちの父親健と上海日本尋常小学校	43
(1) 上海日本尋常小学校	43
(2) 日本人居留民の上海での発展	44
3. アメリカへ渡った祖父画一郎	45
(1) アメリカへ移民として渡る	45
(2) アメリカにおける日本人排斥	46
4. 上海での一家の生活	47
(1) 日本人狙撃事件と長崎への避難	47
(2) 上海の衛生状態	48
(3) 内山書店の内山完造氏	48
5. 引揚までに至る上海での最後の生活	49
(1) 敗戦に至るまでの上海の様相	50
(2) 敗戦を迎えた一家の処遇	50
6. 引揚者と戦後の生活	51
(1) 浜松での引揚げ生活	52
(2) 生活が定着するまでの困難	52
おわりに	55
謝辞	56

第4章 語られ始めたドイツ系アメリカ人の強制収容所での体験

.....	山元里美	58
はじめに		58
1. 第二次世界大戦(1939～1945年)とドイツ系コミュニティ		59
2. アメリカ政府の専門委員会による調査結果		64
(1) シェリダン・リポート(1980)		64
(2) 拒否された個人の正義(1983)		66
(3) アメリカ政府への勧告		69
3. ドイツ系アメリカ人が語る強制収容		69
おわりに		73

第5章 占領期の科学技術の受容

——医薬品産業と統計的品質管理導入の意義……………佐藤晶子…77

はじめに 77

- (1) 本稿の目的 77
- (2) 本稿の意義 77

1. 先行研究史 79

- (1) 占領期政策に関する研究 79
- (2) アメリカにおける政策決定はどのようになされるか 80
- (3) 日米欧で異なる社会保障制度の歴史的経緯 81

2. 日本の科学技術再編の基本政策と活動 83

- (1) 米国学術顧問団の勧告 83
- (2) 当時の公衆衛生の問題 83
- (3) 行政の公衆衛生への取り組みと機構 84
- (4) 公衆衛生の取り組みで最重要視された結核対策 84

3. SQCを採用した医薬品産業 85

- (1) 田邊製薬の事例 85
- (2) 武田薬品、塩野義製薬の事例 86
- (3) 医薬品の配給統制から安定供給体制へのシフト 86
- (4) 薬価基準の設定 88
- (5) 科学技術の受容と発展の功罪 89

おわりに 89

第6章 看護の変容と近代というディレンマ

——GHQの「遺産」を巡るいくつかの視点……………井村俊義…96

はじめに 96

- 1. 看護における戦前と戦後の相対化 96
- 2. 医療の合理化と看護の役割 100
- 3. 意味を感受する能力と看護する精神 104

おわりに 106

第7章 勝敗が方向性を分けた戦後…………… 堤悦子…111

- はじめに 111
1. 戦後日本の企業抑制政策 112
 2. 日本における医療領域の位置づけ 113
 - (1) 日本企業の医療機器参入状況 115
 - (2) データでみる日本の医療機器市場 115
 - (3) 世界の医療機器市場 117
 - (4) 日本の医療機器専業企業 117
 - (5) 国民医療費 118
 - (6) 日本的経営 119
 3. アメリカの軍事技術の開発と中小企業の発展 120
 - (1) アメリカのスタートアップ企業 120
 - (2) 投資によるスタートアップ企業の支援 121
 - (3) 世界初の人工心臓アクトハートの完成 122
 4. 第二次世界大戦の遺産 124
 - (1) 経済成長をはじめた時代の日本の起業環境 124
 - (2) ソフトバンクにみる日本の起業環境 126
 - (3) エリート社員のスピンアウト 127
 - (4) 日本における現代の企業家像 127
 - (5) 社会的意義のある事業 128
- おわりに 131

第8章 南原繁と全面講和論…………… 浅野一弘…133

- はじめに 133
1. 南原繁の全面講和論 134
 2. 南原の考えた全面講和論 135
 3. 南原と憲法第9条 138
 4. 「曲学阿世の徒」論争 142
- おわりに 145

第9章 大國間戦争後の国際秩序

——ソフト・ピースかハード・ピースか…………… 島村直幸…151

はじめに——ソフト・ピースかハード・ピースか 151

1. ナポレオン戦争とその後

——「ウィーン体制」と「ヨーロッパの協調」 152

(1) ナポレオン戦争 152

(2) ウィーン講和会議——「ソフト・ピース」の典型事例 153

(3) 「長い平和」としてのナポレオン戦争後 154

2. 第一次世界大戦とその後——「危機の20年」 155

(1) 第一次世界大戦 155

(2) ヴェルサイユ講和条約——「ハード・ピース」の典型事例 157

(3) 第一次世界大戦後——「危機の20年」としての戦間期 158

3. 第二次世界大戦とその後——米ソ冷戦とアメリカの覇権秩序 160

(1) 第二次世界大戦 160

(2) サミット外交と戦後構想——リベラルな秩序の模索 161

(3) 第二次世界大戦後——米ソ冷戦とアメリカの覇権秩序 162

おわりに 164

第10章 日本の対中東外交政策決定過程と日米関係

——親アラブ協調外交路線におけるパラドックス… 奈須 健…168

はじめに 168

1. アラブ諸国の対日石油戦略と外交問題の表面化 169

(1) 第四次中東戦争から第一次石油危機勃発前夜 169

(2) 石油輸出削減対象国日本の課題 170

(3) アラブ友好国へ向けての情報収集 172

2. 日米会談と親米協調外交路線からの逸脱 173

(1) キッシンジャー構想と日本政府構想間の乖離 173

(2) 親アラブ協調外交路線への転換と日本のジレンマ 173

3. 親アラブ協調外交路線から親米協調外交路線への再修正 175

(1) アラブ諸国及び米国への特使派遣 175

(2) ワシントン・エネルギー会議と親米協調外交路線への再修正 178

おわりに 180

謝 辞..... 186

執筆者紹介..... 187